モヤモヤ病

モヤモヤ病

講演会・療養相談会

実施日:平成 23 年 7 月 2 日(土)13:30～16:00
場　所:サンシップとやま　704 号室
参加者:31 人(患者 7 人・家族 21 人・その他　3人)
講　師:富山大学附属病院　脳外科助教　浜田　秀雄氏

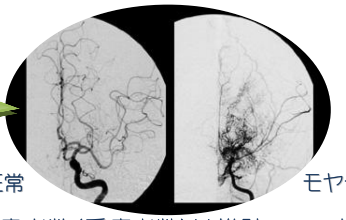
(講演スライドより・・)

◆モヤモヤ病とは？

両側の頭蓋内内頚動脈終末部に慢性進行性の狭窄を生じ,側副路と して脳底部を中心とした異常な血管網(もやもや血管)の増生を認める.

脳血管撮影にて異常血管網が立ちのぼる煙のように見えることからもやもや病と命名(鈴木、高久)されたが,加えてこの異常血管網が時間経過とともに顕在化、あるいは消失するなどの変化が見られることから「もやもや」という言葉には「うつろいやすい」という意味も含まれている.

◆モヤモヤ病の血管撮影



正常　　モヤモヤ病

◆疫　学

(1)患者数

1994 年の全国疫学調査の結果では,もやもや病患者数(受療者数)は推計 3900 人.患者数は 3.16 人/10 万人.発生率は 0.35 人/10 万人/年. 特定疾患医療受給者数の推移からは,患者数の増加が伺われ,その原因として疾患概念の普及と MRI/A 所見のみによって診断が可能となったことが挙げられる.　※「特定疾患(難病)医療受給者証」所持者数　1994 年 5227 人　2005 年 10812 人

【※平成 22 年度・富山県では 119 人】

(2)性　差 ・・・女性に多く男女比は 1:1.8～1.9

(3)家族歴・・・患者の 10.0%に家族歴がある.

(4)発症年齢・・・発症年齢は二峰性で 10 歳未満の大きなピークと 20 歳代後半から 30 歳代にかけての緩やかなピークがみられる.

(5)人種差・・・日本,韓国,中国などアジアに多く、ヨーロッパやアメリカで報告されている患者の多くはアジア系。
アフリカ系人種・コーカサス人種では報告が少ない.

◆症　状

(1)小　児

啼泣,笛を吹く,ラーメンなど熱いものを吹き冷ますなどの過換気による一過性脳虚血発作(脱力,感覚障害,意識障害,不随意運動,失語など)が典型的.　後大脳動脈にも病変が有ると視覚,視野異常を生じる.

若年発症ほど症状の進行が早く早急な治療を要す. 出血型は稀　頭痛を訴えることも多い.(頭痛のメカニズムは不明)

(2)成　人

頭蓋内出血と脳梗塞あるいは一過性脳虚血の脳虚血型がほぼ半々の頻度でみられる.

参加者の声(アンケート回答者・・25 名)

◆講演内容について

・話が理解できた、だいたい理解できた(23 人)　・少し難しかった(2 名)

◆療養相談会について

・思っていることが相談できた(14 名)　・充分言えなかった(2 名)　・他の人の話が参考になった(6 名)

◆研修会に参加して・・良かった(23 名)

・今後の療養生活に役立つ情報が得られた(15 名)　・気持ちが楽になった・元気になった・楽しかった(各々2 名)

◆その他

・勉強になった　・この様な会合があれば知らせて欲しい　・他人の質問をいろいろ聞くことができて良かった

モヤモヤ病の患者と家族の会・略称「もやの会」

【富山県支部】代表：橋本　多緯子
電　話：090-2039-1030
E-mail：tako.2-113@ezweb.ne.jp